令和４年度　第７２次印旛地区教育研究集会
音楽分科会提案資料

音楽研究部研究主題

音楽のよさや美しさを聴き取ろう　感じ取ろう　そして伝え合おう ～音楽的な見方・考え方を働かせ、進んで音楽に親しみ、 音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための授業づくり～

研究副主題
「音楽的な見方・考え方を働かせ、思いや意図をもって創作表現する生徒の育成」

1　研究副主題設定の理由
印旛地区教育研究会音楽研究部の研究主題である「音楽のよさや美しさを聴き取ろう　感じ取ろう　そして伝え合おう」に基づき、鑑賞の学習を通して聴き取った箏の音色の美しさや、曲の構成に注目させることによって、音楽的な見方・考え方を働かせ、生徒それぞれの思いや意図をもった創作表現につながるのではないかと考える。音楽の学習内容のうち、創作の活動は自ら音楽を創る活動であり、生徒が考えた旋律をグループで共有し、表したいイメージに合った音楽のつなぎ方や構成を創意工夫することで、一人ひとりの思いや意図が深まった創作表現になると考え、本副主題を設定した。
また、本校生徒へのアンケートから、８０％の生徒が音楽の学習を好きと回答している。しかし、創作表現については７３％の生徒がどちらかというと好きではないと回答している。このような実態から、楽器の音色を生かし易い箏を用い、仲間と協力することで、自分の思いや意図を安心して表現し合える活動にしたいと考える。また、生徒が思いや意図をもって音楽表現を創意工夫する楽しさを味わい、音楽の学習全体につなげていけるようにしたいと考え、本題材を設定した。

2　研究仮説
（１）創作表現と鑑賞の活動を組み合わせ、聴き取った箏の音色の美しさや、曲の構成に注目させることによって思いや意図を明確にした創作表現をすることができるであろう。

（２）表したいイメージをもってグループ活動をすることにより、思いや意図をもって創作表現をすることができるであろう。

3　研究内容
仮説（１）、（２）の手立てが有効かを検証するための授業実践
①　既習曲による振り返り（鑑賞活動）
②　箏の表現活動（「さくらさくら」の演奏、基本的な奏法の確認）
③　友だちと考えを共有する場面の設定
④　ワークシートやタブレットの活用
⑤　友だちと演奏を聴き合う場面の設定

4　結論
事前に鑑賞の活動を取り入れ、その曲の特徴を思い出して全体で共有することで、自分の思いや意図を創作表現することができた。創作表現の前に鑑賞の活動を行い、知識や感想をもっておくことで、生徒の音楽的な見方・考え方につなげることができた。
創作表現に表したいイメージをもつことで、自分の思いや意図を明確にすることができた。
また、グループで活動することで、自分の思いをはっきりともてなかったり、どうしてよいか困ってしまったりする生徒も、話し合いの中でイメージをもち、自分の思いや意図をもって創作表現をすることができた。

第三部会　印西市立船穂中学校
田中　美公子

1　研究主題

音楽のよさや美しさを聴き取ろう　感じ取ろう　そして伝え合おう ～音楽的な見方・考え方を働かせ、進んで音楽に親しみ、 音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための授業づくり～

2　研究副主題

音楽的な見方・考え方を働かせ、思いや意図をもって創作表現をする生徒の育成

3　研究副主題設定の理由

（1）　学習指導要領との関わり

中学校学習指導要領　第２章各教科　第５節　音楽　第１　目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、 音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （1）曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 （2）音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。 （3）音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

印旛地区教育研究会音楽研究部の研究主題である「音楽のよさや美しさを聴き取ろう　感じ取ろう　そして伝え合おう」に基づき、鑑賞の学習を通して聴き取った箏の音色の美しさや、曲の構成に注目させることによって、音楽的な見方・考え方を働かせ、生徒それぞれの思いや意図をもった創作表現につながるのではないかと考える。音楽の学習内容のうち、創作の活動は自ら音楽を創る活動であり、生徒が考えた旋律をグループで共有し、表したいイメージに合った音楽のつなぎ方や構成を創意工夫することで、一人ひとりの思いや意図が深まった創作表現になると考え、本副主題を設定した。

（2）生徒の実態から

船穂中学校は、印西市の西部にあり、この地域はニュータウン地域と旧農村地区が　共生する、都市環境と豊かな自然環境が調和した地域となっている。平成２年にはニュータウン地区の生徒数の増加に伴い、原山中学校が分離開校した。その後生徒数は減少し、開校７５年目を迎えた現在は８学級（特別支援学級２学級含む）となっている。また、学区は船穂小学校と高花小学校の２校である。

本研究を始めるにあたり、事前のアンケートを行ったところ８０％の生徒が音楽の学習を好きまたはどちらかというと好きと回答している（図１）。

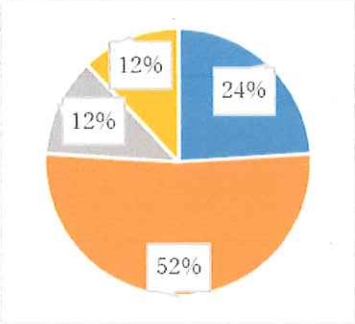
好きな学習については歌唱と器楽の活動が好きと答える生徒が、それぞれ４５％いる（図２）。

このことから、年間を通じて多く取り組む歌唱表現が好きな生徒も半数いるが、器楽表現も、それと同じくらい好きと感じている生徒がいることがわかる。

創作表現についての質問では、２７％の生徒が好き、またはどちらかというと好きと回答したが、７３％の生徒がどちらかというと好きではない、好きではないと回答している（図３）。好きな理由としては、「自由に作れるから」「人にはないものを作れるから」という理由があがった。一方、好きではない、どちらかというと好きではないという理由としては、「難しそう」「自分ひとりではできそうにない」などの理由があがった。創作が他の活動と比べて扱う時間数が少なくイメージがわきにくいことや、自分ひとりでやるとなるとできるのか不安に思うことがあるのではないかと考えられる。

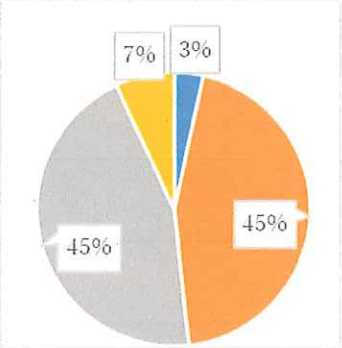
曲を聴くときにどんなところに気を付けて聴いていますかという質問では、音色、リズム、強弱、楽器に注目して聴いている生徒が５６％いるが、その他の要素については、知識や経験の不足から、今後も意識して扱うことが必要と考える（図４）。

図１　音楽の学習は好きですか。



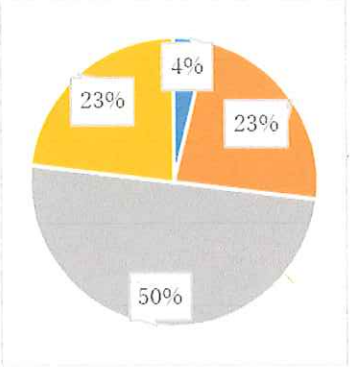
好き	２４％
どちらかというと好き	５２％
どちらかというと好きではない	１２％
好きではない	１２％

図２　どの音楽の学習活動が好きですか。



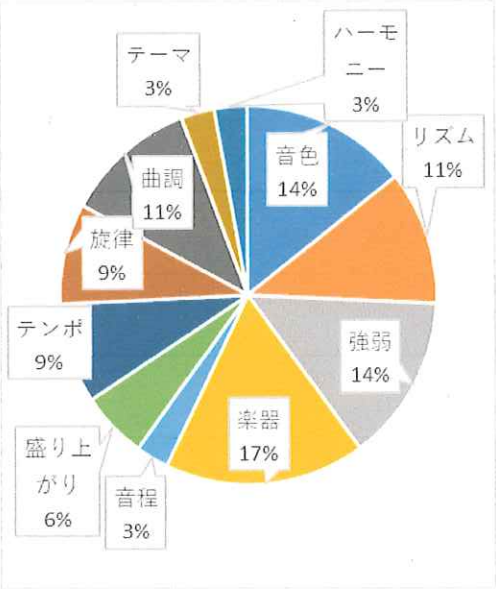
創作	３％
歌唱	４５％
器楽	４５％
鑑賞	７％

図３　創作表現は好きですか。



好き	４％
どちらかというと好き	３％
どちらかというと好きではない	５０％
好きではない	２３％

図４　曲を聴くときにどんなところに気を付けて聴いていますか。



音色	14%
リズム	11%
強弱	14%
楽器	17%
音程	3%
盛り上がり	6%
テンポ	9%
旋律	9%
曲調	11%
テーマ	3%
ハーモニー	3%

このような実態から、楽器の音色を生かし、仲間と協力することで、自分の思いや意図を安心して表現し合える活動にしたいと考える。また、生徒が思いや意図をもって音楽表現を創意工夫する楽しさを味わい、音楽の学習全体につなげていけるようにしたいと考え、本題材を設定した。

４　研究仮説

【仮説１】　創作表現と鑑賞の活動を組み合わせ、聴き取った箏の音色の美しさや、曲の構成に注目させることによって、思いや意図を明確にした創作表現をすることができるであろう。

【仮説２】　表したいイメージをもって個やグループでの活動をすることにより、思いや意図が深まった創作表現をすることができるであろう。

5　研究の実際

（1）仮説1について

手立て1　既習曲の振り返りを行い、曲の特徴について全体で確認し、共有する。

「六段の調」の鑑賞を生かし、箏の音色や奏法に着目し、小学校で演奏した「さくらさくら」の演奏では使わなかった様々な奏法が使われていることに気付いた。さらに既習曲の「花」「ボレロ」「心の瞳」について曲の特徴を全体で確認した。「花」では、学習した二部形式 A（aa´）B（b a´）など構成について振り返り、続く感じと終わる感じが交互に出てきていたことを思い出すことができた。また、フェルマータで終わる時に盛り上がる感じなどを思い出す生徒が多かった。

「ボレロ」では、二つの旋律が繰り返されていることはすぐに思い出した。「強弱はどうか」と質問すると、「最初はスネアドラムで聞こえないほど小さかった。」「最後は楽器が増えて、強弱がとても強かった。」「曲の終わり！という感じがした。」といった発言があった。「心の瞳」では「ボレロと違う曲の終わり方をしていた。」「やさしい終わり方をしていた。」「落ち着いた感じがした。」などの発言が聞かれた。

既習曲の振り返りを行ったことにより、その後のグループ活動では、「みんなの旋律は続く感じがするけど、自分の旋律は終わりっぽいんだよな。」と発言が出た。また、友だちの旋律のイメージについて考え、その旋律のつなぎ方の工夫について思いや意図をもつことができた。

（2）仮説2について

手立て1　友だちと考えを共有する場面を設定することで、思いや意図が深められるようにする。

テーマを「季節」に設定し、個々の創作した2小節の旋律を持ち寄り、つなげていく話合い活動の中で、表したいイメージを共有し、創作へつなげることができた。話し合いの中から出てきた言葉をよりどころとしながら、それぞれのイメージする音を探したり効果的な奏法を試したりすることで、思いや意図を深める場面がみられた。また、個人が創作した旋律を演奏しグループで互いに聴き合う場面でも、同じ「季節」を選択しているため、季節にふさわしい場面を想像することや曲としてのつなぎ方や構成の工夫につながる発言が多く聞かれた。

1つの曲に構成していく場面では、まとまりのある曲になるようそれぞれの創作した旋律を生かしつつ、より表したいイメージに近づけるための奏法を加えたり、つなぎ方を工夫したりと思考錯誤する深まりがみられた。

手立て２　グループでの創作活動に ICT 機器を用いることで、音楽を視覚的に捉えやすくする。

個人で創った旋律を４人グループでまとまりのある音楽にする際、ジャムボードを使って話し合いの記録をとるようにした。今回の創作は二面の箏を使うため、誰の旋律をどちらの箏を使って演奏するかが複雑になりやすい。記録画面に人ごとに色を分けて表記を工夫することで、見て分かりやすく記録も取りやすくすることができた。また、画面はそのまま楽譜代わりにもなるので、実際に演奏する際にも自分のクロームブックを見ることで全員が同じ画面を見ることができ、グループに一つしか記録用紙がない場合と比べると演奏がしやすいと感じる生徒が多かった。

ジャムボードを用いたことで、他のグループの記録も見ることができ、中間発表の際にはモニターに接続し色々なグループの工夫を互いに確認し合い、視覚的に工夫をとらえることができた。演奏を聴取するだけでは伝わりにくかったグループの工夫も、記録画面を見ながら行うことで何に注目すればよいかも明確に生徒が感じていた。タブレットは教職員からも全てのグループのページを見ることができるので、指導のための声かけのタイミングを計り、声かけの内容を検討する際にも参考になった。

今回の創作活動では、個人の旋律の創作の際には紙による記録を、グループ活動の際にはジャムボードを使用したが、その活動の特性や利便性を考え、話し合いの記録等の手立てを工夫したことが、生徒の理解へとつながった。

手立て３　友達と聴き合う場面を設け、思いや意図が伝わる表現になっているか助言し合い、自分の演奏に生かす。

学習の最後に、グループ発表を設けることで、イメージした「季節」の思いや意図が伝わる演奏になっているか助言し合う場面を設定した。

各グループがイメージした「〇〇な季節」を発表する際に、グループごとに考えた工夫を発表し、イメージと工夫の関わりに注目しながら聴いた。発表後の感想は、「最後の音が上がっていき、華やかな部分が【夏の祭り】のような感じがする」や、「音が段階的に下がる部分が【秋の落ち葉】のように感じる」また、「カーラリンで始まることで春の清々しい始まりのような感じがする」などの言葉が出てきた。ねらいとする〔旋律〕の要素に関わる言葉が見られた。さらに箏独特の奏法や音色との関わりも感じられていた。

もう一つのねらいとする〔構成〕に関しては、旋律の組み合わせを工夫しているグループが互いに聴き合う場面で、同じ旋律が繰り返されたり、始まりと終わりの音の高さについての発言が見られたりした。同じ旋律の繰り返しを使用するグループに対し、繰り返された２回目が大きくなっていった方がよりイメージにつながるなどの助言もみられた。

互いに聴きあう活動をと通して、表したいイメージが伝わる喜びや、感じ取る楽しさを体験することで、さらに発展した創作活動への意欲が高まったと学習を終えての感想に記されていた。

6 成果と課題

○比較的容易に弾くことができ、自分らしい音色の工夫や平調子の美しい響きを感じられる箏を用いたことで、創作活動への意欲をもつことができた。

○鑑賞の活動から、その曲の特徴を全体で共有することで、自分の思いや意図をもって創作表現することができた。

○グループで活動することにより、自分の思いをはっきりともてなかったり、どうしてよいか困ってしまったりする生徒も、話し合いの中で表したいイメージをもち、思いや意図をもって創作表現をすることができた。

○最初創作表現に消極的と答えた生徒も、この学習を通してさらに難しい創作への意欲をもつことができた。

●音楽的な見方・考え方を働かせ、より深い学びにするためには、音楽を形づくっている要素を精選して指導することが大切であることを学んだ。更に研究し続けていく必要がある。

●ワークシート以外にタブレットを用いることは、自分の思いや意図をもちやすく、友だちとの意見の共有にも有効であるが、使用の場面について教員が吟味しなければ本来の学習目標を達成することができない。学習目標や生徒の実態も考えて、ワークシートを使用するのか、タブレットを使用するのか、どちらが有効なのか考えていく必要がある。

●タブレットの操作に慣れるまでに時間がかかった。また操作することに時間がかかり話し合いが進まない場面があった。限られた音楽の学習の中で実際に音を出して何度も試行錯誤を重ねるという指導者の意図をしっかりと生徒たちに伝えられるよう指導を工夫していきたい。

資料

第３学年Ｂ組　音楽科学習指導案

指導者　　田中美公子
展開場所　多目的室

1　題材名
「箏の音色を生かし、構成や旋律のつなぎ方を工夫してまとまりのある旋律を創作しよう」（４時間）

教材名　表現（創作）平調子を活用する旋律づくり
「さくらさくら」　日本古謡

【本題材で扱う学習指導要領の内容】
第２学年及び第３学年　Ａ表現　（３）　創作の事項　ア、イ(イ)、ウ
〔共通事項〕（１）　ア　旋律、構成

2　題材について
（１）題材の目標
○基本的な箏の奏法について理解するとともに、グループ学習において、旋律のつなぎ方などの構成を生かしてまとまりのある音楽をつくる技能を身につける。(知識及び技能)
○箏の表現を生かして、グループで構成を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもつ。
(思考力、判断力、表現力等)
○箏の表現を生かして、構成を工夫してグループで創作する活動に主体的・協働的に取り組む。
(学びに向かう力、人間性等)

（２）題材設定の理由
箏は爪の当て方、力の入れ方の違いで音色等の表現の工夫ができ、手軽に平調子を味わうことができる、日本の伝統楽器の一つである。魅力的な楽器でありながら、生徒は誰でもすぐに音を鳴らすことができる。また三部会の生徒は、小学生の頃から邦楽体験で講師の先生を招いての授業を受ける機会もあり、箏になじみが深い。小学校では弾くことだけで精一杯だった生徒も、中学生になるとさらに身体や心が成長し、音色等の表現の工夫ができるのではないかと考える。
そこで今回は箏を用いて、さらに箏の独特な奏法が生み出す特徴的な音色も生かして、創作を行う。創作を行う上では、「こういう音を響かせたい」、「こういう奏法を試してみたい」と、思いを表現することが容易な箏を用いて、自分の思いや意図をより表現したいと考える。また１人２小節創作したものから、グループで協力して曲にするため、個人では思いつかなかった旋律のつなぎ方や構成に気付いたり、創作活動に苦手意識をもっている生徒にも達成感をもたせたりすることができると考える。

（３）生徒の実態　３年生（男子１９名　女子１５名　計３４名）
素直で明るい生徒が多く、合唱や鑑賞の様々な活動にも協力的に取り組むことができる。コロナ禍による入学と同時の臨時休校を経験したため、集団の中で自分を表現することにおいては非常に苦手意識があり、歌唱表現における歌声は小さかった。しかし３年生になり、歌声についても少し積極的な姿勢が見られるようになった。

創作活動としては、１年次に「オリジナルラップを創作しよう」で、言葉のリズムを生かしてラップをつくる活動を行った。詩を作るまでに時間がかかったが、まとめとして互いの作品を聴き合ったあとには、

「もっと面白いリズムの言葉を探せばよかった」、「強弱をつければよかった」などの、次はこうしたいとの感想が聞かれた。

また、２年次には「リズムパターンをつくろう」で八分音符のつなぎ方を工夫し、それを表現する活動を行った。八分音符のつなぎ方によるリズムの変化の違いを感じ取ったり、ボディパーカッションでそのリズムを表現したりすることができた。まとめの感想では、「八分音符のつなぎ方を工夫したい」という感想や「楽器で音階があったらもっとおもしろそうだと思った」、などの感想が聞かれた。

箏については１年次に「六段の調」の鑑賞を行い、箏の歴史、曲の構成については理解している。

また、小学校６年次に、どの生徒も「さくらさくら」の演奏を行った経験がある。

特別支援学級在籍の生徒が２名いるが、楽器を演奏することは好きであり、班の仲間の助言、サポートがあれば一緒に活動することができる。事前に授業のながれを本人たちに伝え、イメージをもたせておきたい。

以下は生徒の箏の学習に関するアンケート結果である。

① 箏はどのような場所や場面で演奏されていると思いますか。

・和風な場所・和歌・前奏・京都・昔の曲・天皇の前・和室・神社・偉い人が来るところ

・天皇の儀式　・畳・畳の上で着物を着て・新年・厳かなところ・めでたいとき・しっかりしているところ

② （①）について、それはなぜですか。

・和の楽器だから・日本の文化だから・音色が昔っぽいから・越天楽と同じ感じだと思ったから

・雰囲気がそうだから・箏というだけで特別のもののように感じる・伝統を重んじていると思うから

・僕たちはいつも目にしないから

③ ふだん曲を聴くとき、どんなことに気をつけて聴いていますか。

音色　１４名　リズム　１１名　強弱　１４名　楽器　１７名　音程　３名　曲の盛り上がり　６名

テンポ　９名　旋律　９名　曲調　１１名　テーマ　３名　ハーモニー　３名

（４）指導観

箏は小学校でも習い、親しみがあり、平調子の美しい響きを味わうことができる。親指１本でも弾くことができ、箏の演奏経験が少ない生徒でも、比較的容易に弾くことができる。また、創作を行う上では、「こういう音を響かせたい」、「こういう奏法を試してみたい」と、思いを表現することが容易である。

アンケートの結果から、箏の音色から「和」の雰囲気を感じ取り、西洋音楽で用いられる楽器の音色との違いには気づいており、また鑑賞の活動からも音色の美しさについては十分感じ取ることができている。今後はさらに、箏の特徴的な奏法についても理解した上で、表したいイメージをもち、思いや意図をもって創作表現をさせたいと考える。

次に、「ふだん曲を聴くとき、どんなことに気を付けて聴いているか。」という質問では、音色、リズム、強弱、楽器、曲調について気を付けて聴いている生徒が多い。それらに比べて音程、曲の盛り上がり、テーマ、テクスチュアについての意識は不足している。グループで協力すれば様々な意見を出すことができるのではないかと考える。このことから、旋律や構成を工夫しながら、思いや意図をもって創作をさせたいと考える。

また、記録にはジャムボードも使用し、グループ内で旋律のつなぎ方を工夫するときに、意見の共有をしやすくした。このことによって、箏を用いた初めての創作活動に、抵抗を持たずに取り組むことができると考えた。

3　題材の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
題材の評価規準	知 基本的な箏の奏法について理解している。 技 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合わせなどの技能を身につけ、創作で表している。	思 旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、創作表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。	態 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。

4　指導と評価の計画（４時間）（本時３/４時間）

時配	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動 ☆〔思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素（音符、休符、記号や用語）〕	○教師の発問や働きかけ ・目指す生徒の姿	評価の観点〈評価方法〉 知・技	思	態
第1時	◎箏の基本的な奏法を身に付け、特徴的な奏法を演奏する。				
	○基本的な奏法を身に付け、「さくらさくら」の旋律を演奏する。 ・「さくらさくら」親指の爪をつけて復習する。 ○箏の音階とピアノの音階の相違点などに気付く。 ○「六段の調」でも使用されていた箏の特徴的な奏法を演奏する。 ・奏法についての練習をする。 （かき爪、合わせ爪、後押し、揺り色、流し爪）	○正しい姿勢と爪の当て方で試せるように声かけをする。 ○平調子と平均律の違いを確認する。 ・箏とピアノの音階を聴き比べ、雰囲気の違いは、二つの音階の構成音からくるものだと気づき、理解する。 ・ペアの人が試しているときも、どのような弾き方でやったらどのような音がして、どんな感じがしたかなど、注意深く聞いている。	知（記述・発言）		
第2時	◎曲のイメージを持ち、ひとり２小節（８拍分）の旋律をつくる。				
	○４人グループでテーマ「季節」で、どの季節を選ぶか話し合う。 創作の約束 ・一人２小節（８拍分）つくる ・速さは♩＝６０くらい ・基本のリズムに音をあてる ♩♩♩♩|♩♩♩𝄾 （リズム例をプリントから選び、それに音をあてる）	・テーマにする季節を決める。 ○曲の感じを表す言葉の掲示物を掲示しておく。			

	・前時に学習した奏法を必要に応じて入れてよい ・約束をふまえて、２小節の旋律をつくり、用紙に記録する。特徴的な奏法を使う場合はマスキングシールで表す。 ・自分の作品は仲間にタブレットの動画を撮ってもらい、聴く。 ☆〔旋律〕	・創作の約束をふまえ、個人で季節のイメージや、どう工夫したいかプリントにメモをしながらつくっている。 ・考えた旋律は、必ず箏で試し、またタブレットで仲間に動画を撮ってもらったものを再生して聴きながらつくっている。		思〈記述・発言・聴取〉	
第3時（本時）	◎曲のイメージを持ち、音のつなぎ方や構成を工夫してまとまりのある旋律をつくる。				
	○４人グループで個人の旋律を演奏し互いに聴き合う。 ○～な季節のイメージを互いに話し合う。 ○思いや意図をもって、まとまりのある曲になるように音のつなぎ方や構成を工夫する。 ・班の仲間の旋律をどこに使うとよいか、役割を考えて試してみる。 ・曲のイメージにふさわしい奏法の使い方になっているか考える。 ・試行錯誤の様子はジャムボードに記録する。 ☆〔構成〕	○前時に創作した旋律を４人でつなげて演奏する。 ○イメージのまとまらないグループには、前時記録したイメージを振り返るように声をかける。 ・班の仲間の旋律をどこに使うとよいか考えたり、音のつなぎ方や構成の部分で試したりしている。 ・曲のイメージに奏法がふさわしいものになっているか、試して聴きあっている。 ○まとまりのある旋律にするために、イメージをもとに自分の旋律を部分的に変更してもよいことを伝える。 ○演奏が完成した班には、タブレットで動画に撮り、客観的に聴かせる。		思〈記述・発言・聴取〉	
第4時	◎互いのグループの作品の演奏を聴き合い、自分のグループにはない音のつながり方や構成の工夫を知る。				
	○出来上がった作品を演奏し、互いに聴き合い、振り返りをする。	・作品を互いに聴き合い、自分のグループにはない音のつなぎ方や構成の工夫から、どのような感じがしたか、見つけている。 ○創作の表現を工夫して、どのように音楽をつくるかについて思いを持つことが大事であって、演奏が上手にできることのみに気持ちがいかないように助言する。	技〈演奏聴取〉		態〈観察・記述〉

5　本時の指導（3／4）

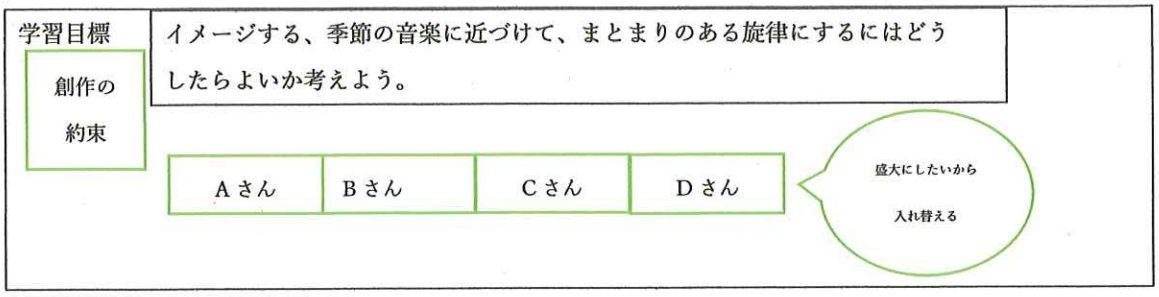
（1）本時の目標

曲のイメージをもち、音のつなぎ方や構成を工夫してまとまりのある旋律をつくる。

（2）本時の展開

時配	○学習内容　・学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素〕	○教師の発問や働きかけ ・目指す（予想される）生徒の姿	評価の場面〈評価方法〉		
			知・技	思	態
5分	○前時の振り返りをする。 ・個人で作った2小節の旋律の演奏練習を行う。	○曲の感じを表す言葉、奏法の掲示物、創作の約束は、生徒がいつでも見られるように掲示しておく。			
3分	○4人班で個人の旋律を演奏し互いに聴き合う。	○教師がハーモニーディレクターで拍をとり全体で共有する。 ・演奏では1グループ二面の箏を使い、曲に休符以外の間があかないよう工夫している。			
2分	○本時のめあてを確認する。				
	イメージする，季節の音楽に近づけて，まとまりのある旋律にするにはどうしたらよいか考えよう。				
3分	○～な季節のイメージを互いに話し合う。	○イメージのまとまらない班には、前時・記録した個人のイメージを振り返るように声をかける。			
32分	○音のつなぎ方や構成を工夫してまとまりのある曲をつくる。 ・班の仲間の旋律をどこに使うとよいか、役割を考えて試してみる。 ・試行錯誤の様子はジャムボードに記録する。 ○曲の感想をグループ内で意見交換する。 ・班員と話し合う中で、自分の旋律に工夫を加えてよいが、全部変えるのではなく、旋律のつなげ方の部分で工夫できることを探す。 ○他の班の演奏を聴く。 ・話し合いが進まなかった班も、演奏を参考にする。 ☆〔構成〕	○「仲間の旋律をどの順番でつなぐと、班のイメージに近づきますか」 ・「この班の旋律はみんな始まり（終わり）のようなので入れ替えたいです」（記述・発言） ・特別支援の生徒には、掲示物を見て授業のながれを一緒に確認してから、グループ活動に入る。 ○既習の合唱曲や鑑賞曲を思い浮かべ、始まり方や終わり方、また箏の奏法の効果について確認する。 ・班員がお互いに意見は出し合うが、だれか一人の作品にならないよう、班で協力して創作する。 ○曲が本当に自分たちのもつイメージに近づいているか、教師が投げかける。 ○箏の特徴的な奏法を必要に応じて入れることで曲の雰囲気がかわることを思い出させる。 ○他の班の演奏も聴かせ、自分たちの演奏に生かすように助言する。 ・演奏が完成した班は、タブレットで動画に撮り、客観的に聴いている。 ○次回はグループごとに演奏を聴き合うことを確認する。		思〈記述・発言・聴取〉	
5分	○学習を振り返りまとめる ・自分の言葉で学習のまとめを書く。				

（3）板書計画



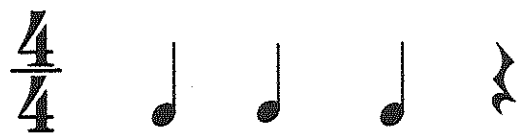
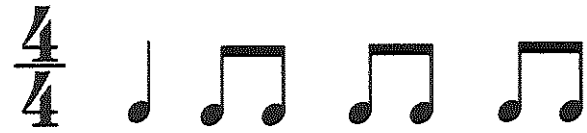
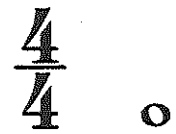
（4）本時の評価

「十分満足できる」状況（A）と判断される例	表したいイメージに向けて、よりよい旋律のつなげ方や音楽の構成や音色に工夫を重ねている。
「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への働きかけの例	教師が例を示して、その中から自分の思いに近いものを選ばせ、グループ学習に取り組めるように助言する。

基本のリズム

基本のリズムを選んで、音をあててみよう。

（　年　組　番　氏名　　）

①		⑥	
②		⑦	
③		⑧	
④		⑨	
⑤		⑩	

※１０パターンあります。ひとり２種類、もしくは１種類を２回使うと２小節分になるね！

箏の個人の旋律記録表

組　　番　　氏名

選んだリズムを書く

→								
一								
二								
三								
四								
五								
六								
七								
八								
九								
十								
斗								
為								
巾								

①私たちの選んだ季節は…

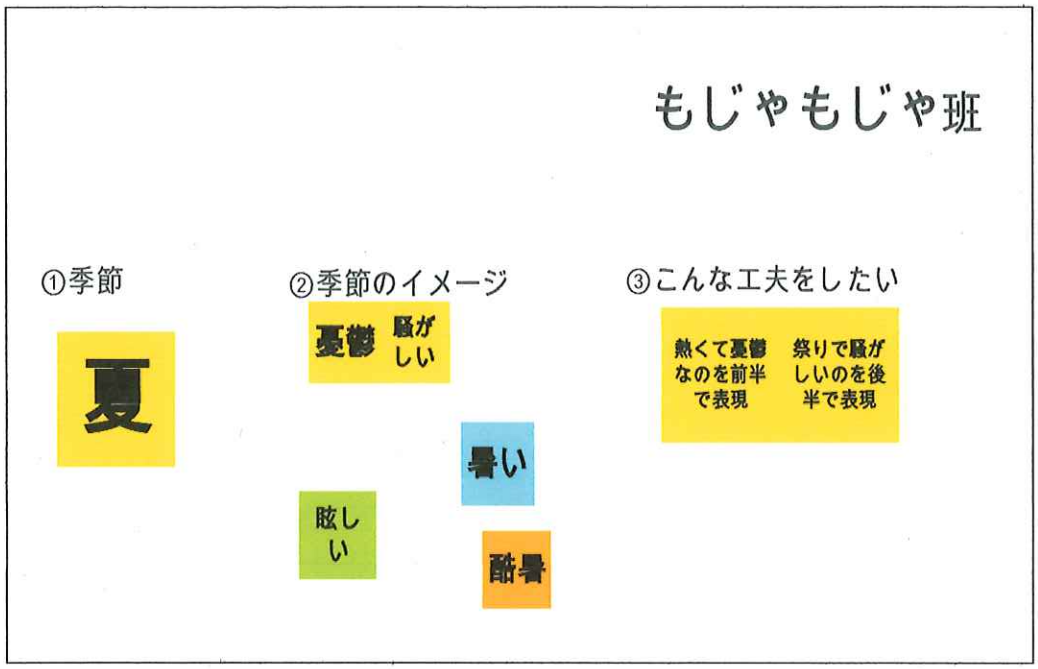
②　①の季節はこんなイメージ！

③そのためにこんな工夫をしたよ！

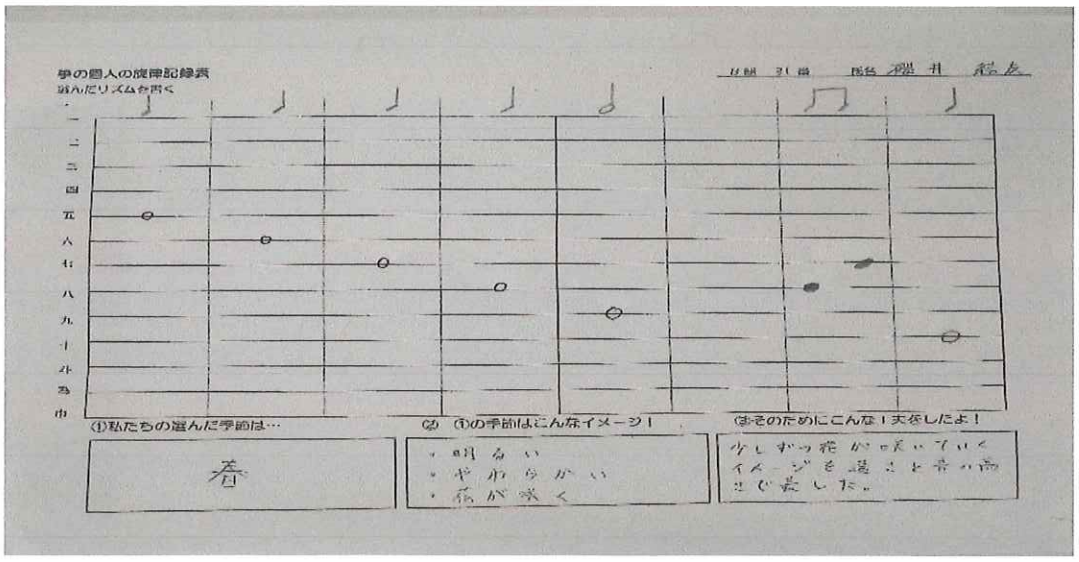
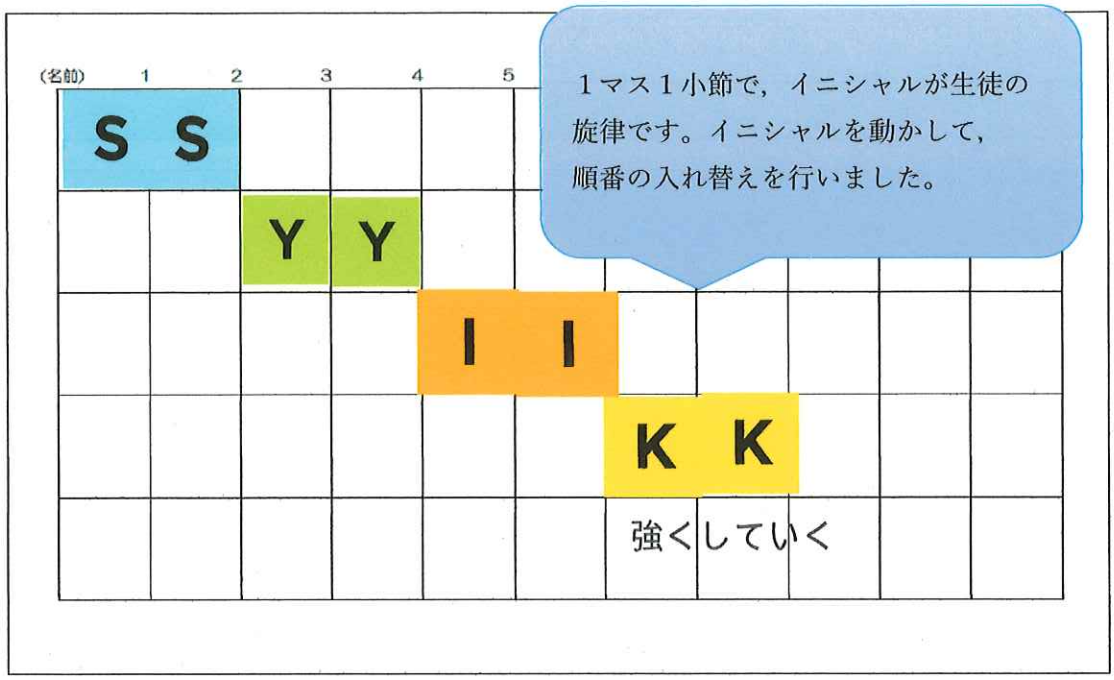
資料１　手立て２　より

ジャムボード　グループで話し合いの記録

「季節のイメージ」と「こんな工夫をしたい」



資料２　手立て２より　　箏の個人の旋律記録表



資料３　手立て３より　ジャムボード　グループでの話し合いの記録
個人の旋律をつなぐ際の記録表